2013年（平成25年）1月28日（月曜日）　スポーツニッポン

相手が自民デモ

首相官邸前で脱原発を訴える抗議行動が、年が明けても続いている。昨年12月の衆院選で「原発ゼロ」に慎重な自民党が圧勝し、参加者には落胆ムードが漂う一方、「気長にやっていこう」と、長期戦を見越した新たな動きも出てきた。衆院選前に流行した「卒原発」の言葉が今や“死語”になるなど、デモ隊の変化を取材した。（飯尾　史彦）

年明けても続行

抗議活動は毎週金曜日に行われており、今年は1週休んで11日に再開された。

東京都豊島区の韓国料理店経営、恵子さん(66)は「衆院選後に原発政策が変わると思ったら、変わるどころか原発推進派の自民党政権になっちゃった。日本人の8割が原発に反対しているはずなのにおかしい」と嘆き、「原発いらない」とシュプレヒコールを上げた。

東京都世田谷区の自営業、藤原啓樹さん(57)は「知り合いが衆院選の結果に脱力して来なくなった。こういう時こそ踏ん張り時なんだけど」と悲しむ。

昨年12月16日の衆院選で脱原発を訴える政党の躍進はなく、今も参加者に落胆や戸惑いが漂う。それと同時に、参加者の多くが指摘し始めたのが「長期戦」だ。

東京都国分寺市の無職山崎晨（のぼる）さん(67)は「安倍首相は今はまだ猫をかぶっている。参院選で自公が過半数を取れれば、すぐに原発を推進し始めるはずだ」と訴え、「こちらも勝負は参院選。過半数は絶対阻止する」と夏に向けて気勢を上げた。

長期戦を見据え、デモ隊にも変化が出てきた。

衆院選前後で1万人程度をキープしてきた参加者数が、18日は5000人、25日は6000人（いずれも主催者発表）と減った。

当番制の導入も

千葉市の主婦内田利奈子さん(63)は「今年から仲間9人全員で来ないで、3人ずつ当番制で参加することにした。先の長い戦いだし、無理せず持続することが大事」と説明する。

横浜市の会社役員の男性(58)も「寒い日は来ないようにしている」と話し、2時間のデモを1時間で切り上げた。参加者の多くが、長い戦いに向け、体力を温存し始めたのだ。

反原発訴え続ける

与党変わっても思い変わらず　参院選まで長期戦覚悟

消えた「卒」原発

目立つようになったのは“光り物”だ。

神奈川県平塚市のアルバイト宝山久司さん(66)は、プラカードに数十個のLED電球をちりばめて高々と掲げ、「目立つでしょう。官邸から見えるかな？」と笑顔。冒頭メッセージを掲げる人が増えているといい、「寒空で大声を出すと喉がやられる。文字で伝える分には疲れないからね。今年に入って急に増えたと思うよ」と説明した。

千葉県市川市の無職猪田雄三さん(61)はペットボトルなどにメッセージを書き、内側にLEDランタンを入れて創り音でつるし、ちょうちんに。これを15個作って周囲の人に配り、「楽しんで作っている。皇居くやっていくには楽しむのも大事」。参加者同士が接し、交流を深め合うことで、参加意欲が湧くという好循環になるようだ。

一方、衆院選前に多くのプラカードに躍っていた「卒原発」の文字が、ほとんど見られなくなったのも印象的だ。

昨年まで「卒原発」を掲げていたという東京都渋谷区の大学院生伊藤司さん(24)は、「卒原発」を傍印に衆院選に臨んだ「日本未来の党」（当時）が惨敗したことを挙げ、「もう死語でしょ。あれだけ大敗すると、ゲンが悪い」とバッサリ。東京都台東区の無職畠田紀和さん(71)は「そういえば見なくなった。脱・卒原発だな」と笑った。

「灯台の役目を」

抗議活動を主催する市民団体「首都圏反原発連合」の中心メンバーで、イラストレーターのミサオ・レッドウルフさんは、こうした長期戦を見据えた動きについて「こちらから特別な働きかけはしていないのに、参加者がそれぞれ自主的に考えてくれて、とてもありがたいこと」と語る。毎週金曜日の抗議活動は全国に飛び火しており、「全国の運動を継続的なものにしていくためにも、官邸前の抗議活動が灯台の役目を果たさないといけない。欲を言えば、参加者数は万単位で、政府に一定の圧力をかけたい」と明かした。

昨年8月にはメンバーと野田佳彦首相（当時）の面会が実現。安倍晋三首相との面会も望んでおり「参院選の前に実現させたい。会うことで参院選の争点を原発の是非にできれば」と規模を広げている。

右下 脱原発のメッセージをちょうちんに。抗議活動にはこういった光り物を持ち込む人が増えてきたという　下 「卒原発」のプラカードはほとんど見られなくなった

共産・笠井議員は皆勤

○…官邸前の抗議活動には政治家の姿も見られる。年明け1回目の11日には、社民党の福島瑞穂党首がデモ隊の先頭でマイクを握り、官邸に向かって「安倍首相、福島を取り戻すことなくして、日本は取り戻せません」と訴えた。ミサオさんによると、参加率が一番高いのは共産党の笠井亮衆院議員で、皆勤賞だという。次いで同党の志位和夫委員長と福島氏。新党日本代表の前衆院議員、田中康夫氏も頻繁に訪れ、抗議の白い風船を参加者に配って回っている。

昨年3月から毎週金曜日

▽官邸前抗議活動　昨年3月から毎週金曜日に市民らが集まり、午後6時から同8時まで官邸に向けて脱原発などを訴える活動。首都圏反原発連合が呼び掛け、ツイッターやフェイスブックなどを通じて情報が広がり、参加者が増えた。大飯原発再稼働問題が具体化するにつれ規模が膨らみ、昨年6月29日に主催者発表で20万人に上った。